



## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月4日

上場取引所 東

上場会社名 オルガノ株式会社

コード番号 6368 URL <http://www.organo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 内田 裕行

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理部長

(氏名) 秋元 英良

TEL 03-5635-5111

四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	43,099	7.5	△253	—	△205	—	△499	—
26年3月期第3四半期	40,087	△8.0	△981	—	△741	—	△468	—

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 △307百万円 (—%) 26年3月期第3四半期 △262百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	△8.67	—
26年3月期第3四半期	△8.13	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	77,709	43,406	55.9
26年3月期	76,852	44,252	57.6

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 43,406百万円 26年3月期 44,252百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	4.00	—	4.00	8.00
27年3月期	—	4.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	4.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年 3月期の連結業績予想(平成26年 4月 1日～平成27年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	70,000	12.7	1,500	80.0	1,400	19.6	900	35.5	15.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 一社 (社名) 、 除外 3社 (社名) オルガノ東京株式会社、オルガノ中部株式会社、オルガノ関西株式会社

(注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

27年3月期3Q	57,949,627 株	26年3月期	57,949,627 株
② 期末自己株式数	355,293 株	26年3月期	347,559 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	57,598,141 株	26年3月期3Q	57,608,217 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費の低迷、中国などアジア地域の新興国や欧州での経済成長の減速などの懸念はありますが、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果もあり、全体として緩やかな景気回復に向かいつつあります。

一方、当社グループを取り巻く市場環境は、国内においては企業の生産活動に持ち直しの動きがみられ、設備投資も業種によっては増加傾向にあるものの、本格的な回復には至らず、主たる海外市場であるアジア地域においては、価格競争が一段と激しさを増しており、引き続き厳しい状況にあります。

このような状況の下、当社グループは、「水処理事業分野における顧客のあらゆるニーズに対して、ワンストップソリューション(One Stop Solutions)が提供できる企業グループの実現」を目指し、事業ポートフォリオの転換をさらに加速させ、機動的な開発・製造・営業体制の構築を目指すとともに、一層のコストダウン、工事力の強化により、収益の改善に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間は受注高53,255百万円(前年同期比6.7%増)、売上高43,099百万円(同7.5%増)、営業損失253百万円(前年同期は営業損失981百万円)、経常損失205百万円(前年同期は経常損失741百万円)、四半期純損失499百万円(前年同期は四半期純損失468百万円)となりました。

事業のセグメント別業績は次のとおりであります。

#### [水処理エンジニアリング事業]

当事業におきましては、国内では産業全般で受注高が増加し、電子産業分野の大型案件や一般産業分野の設備投資やメンテナンス、改造工事の伸長などにより売上高が増加しました。一方、海外では主に台湾の電子産業分野の設備投資の延期や減少などにより、受注高及び売上高ともに減少しました。利益につきましては、主に電子産業分野の売上高の増加、販売費及び一般管理費の削減を進めた結果、改善しました。この結果、受注高38,122百万円(前年同期比8.3%増)、売上高28,938百万円(同12.4%増)、営業損失1,100百万円(前年同期は営業損失1,873百万円)となりました。

#### [機能商品事業]

当事業におきましては、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動、顧客工場の操業度の低下、標準型水処理装置の販売低調などにより、受注高及び売上高はほぼ前連結累計期間並みとなりました。利益につきましては、販売費及び一般管理費の削減を進めましたが、採算性の低下により減少しました。この結果、受注高15,133百万円(前年同期比3.0%増)、売上高14,161百万円(同1.2%減)、営業利益847百万円(同5.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末に比べ856百万円増加し、77,709百万円となりました。これは主に現金及び預金3,650百万円の減少に対し、仕掛品を中心としたたな卸資産4,180百万円の増加によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べ1,702百万円増加し、34,302百万円となりました。これは主に、借入金1,353百万円の増加によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べ845百万円減少し、43,406百万円となりました。これは主に、配当金の支払及び四半期純損失の計上に伴う利益剰余金1,033百万円の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年5月13日に公表いたしました通期連結業績予想は変更しておりません。なお、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成26年4月1日付での当社グループ再編の実施に伴い、特定子会社3社を含む下記の完全子会社7社が、当社を存続会社とする吸収合併により消滅いたしました。

(連結子会社)

オルガノ北海道株式会社

オルガノ東北株式会社

オルガノ東京株式会社(特定子会社)

オルガノ中部株式会社(特定子会社)

オルガノ関西株式会社(特定子会社)

オルガノ九州株式会社

(非連結子会社)

オルガノ山下薬品株式会社

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」第19項の規定により、「中間財務諸表等における税効果会計に関する実務指針」第12項(法定実効税率を使用する方法)に準じて計算しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法に変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が151百万円増加し、利益剰余金が97百万円減少しております。また、この変更による損益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,268	6,618
受取手形及び売掛金	24,162	24,167
リース投資資産	9,312	8,783
商品及び製品	3,553	4,304
仕掛品	1,616	4,972
原材料及び貯蔵品	993	1,067
繰延税金資産	611	617
その他	1,273	2,352
貸倒引当金	△108	△116
流動資産合計	51,683	52,767
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,571	17,630
減価償却累計額	△10,692	△11,051
建物及び構築物(純額)	6,878	6,579
機械装置及び運搬具	5,029	5,077
減価償却累計額	△4,281	△4,424
機械装置及び運搬具(純額)	747	653
土地	12,500	12,502
建設仮勘定	25	69
その他	4,276	4,434
減価償却累計額	△3,627	△3,796
その他(純額)	649	638
有形固定資産合計	20,802	20,442
無形固定資産	370	404
投資その他の資産		
投資有価証券	1,339	1,386
繰延税金資産	2,352	2,348
その他	432	475
貸倒引当金	△128	△115
投資その他の資産合計	3,996	4,094
固定資産合計	25,169	24,941
資産合計	76,852	77,709

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,031	12,402
短期借入金	7,677	10,181
未払法人税等	439	136
前受金	1,553	2,000
繰延税金負債	8	5
賞与引当金	844	287
製品保証引当金	145	184
工事損失引当金	171	395
その他	1,870	1,918
流動負債合計	24,742	27,512
固定負債		
長期借入金	2,552	1,402
繰延税金負債	6	8
退職給付に係る負債	5,171	5,316
その他	127	61
固定負債合計	7,857	6,789
負債合計	32,599	34,302
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,225	8,225
資本剰余金	7,508	7,508
利益剰余金	29,325	28,291
自己株式	△328	△332
株主資本合計	44,730	43,693
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	207	241
繰延ヘッジ損益	4	△0
為替換算調整勘定	54	138
退職給付に係る調整累計額	△745	△665
その他の包括利益累計額合計	△478	△286
純資産合計	44,252	43,406
負債純資産合計	76,852	77,709

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	40,087	43,099
売上原価	30,939	33,701
売上総利益	9,147	9,398
販売費及び一般管理費	10,129	9,651
営業損失(△)	△981	△253
営業外収益		
受取利息	39	15
受取配当金	18	19
固定資産賃貸料	23	18
為替差益	234	32
持分法による投資利益	-	3
その他	49	36
営業外収益合計	366	125
営業外費用		
支払利息	76	56
持分法による投資損失	33	-
その他	16	21
営業外費用合計	126	78
経常損失(△)	△741	△205
特別利益		
固定資産売却益	1	-
特別利益合計	1	-
特別損失		
固定資産廃棄損	2	0
施設利用権評価損	0	0
その他	0	-
特別損失合計	3	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△743	△206
法人税等	△274	292
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△468	△499
四半期純損失(△)	△468	△499

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△468	△499
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	62	31
繰延ヘッジ損益	9	△5
為替換算調整勘定	133	83
退職給付に係る調整額	-	79
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	2
その他の包括利益合計	206	191
四半期包括利益	△262	△307
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△262	△307
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	水処理エンジ ニアリング 事業	機能商品 事業	計	
売上高				
(1) 外部顧客に対する売上高	25,748	14,339	40,087	40,087
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	25,748	14,339	40,087	40,087
セグメント利益又は損失(△)	△1,873	892	△981	△981

(注) セグメント利益又は損失は、営業利益又は営業損失ベースの数値であり、四半期連結損益計算書の営業損失との間に差異はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	水処理エンジ ニアリング 事業	機能商品 事業	計	
売上高				
(1) 外部顧客に対する売上高	28,938	14,161	43,099	43,099
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	28,938	14,161	43,099	43,099
セグメント利益又は損失(△)	△1,100	847	△253	△253

(注) セグメント利益又は損失は、営業利益又は営業損失ベースの数値であり、四半期連結損益計算書の営業損失との間に差異はありません。